令和7年(2025年)2月号　和歌山市立宮小学校

宮通信

めざす児童像

☆ **向上心をもってがんばる子**

☆ **心が豊かでやさしい子**

☆ **心身共に明るく健康でたくましい子**

「思いやりの心」を育む

校長　　川畑　豪則

早いもので２月に入り、暦の上では立春を迎えます。学校では、１月にインフルエンザが流行し、閉鎖した学級がありました。まだ寒い日が続くでしょうが、宮小学校の子どもたちを見ていると、朝休憩から、「おはようございます。行ってきます！」と元気よく運動場に飛び出して行って、友達と仲良く遊ぶ子がたくさんいます。昔も今も、子どもは「風の子」なのでしょうね。毎朝、そんな姿や挨拶で元気をもらっています。

子どもたちの様子をよく観ていると、きつい言葉が多く聞こえてきます。無意識のうちに使ってしまう子もいれば、相手を攻撃するために使ってしまう子もいます。どの子も「こんな言葉は使ってはいけない」ということは分かっているはずですが、実際に使ってしまっているのです。きつくて冷たい言葉が与える影響を考えると、気になる人間関係が見えてきます。これらの言葉が、「ありがとう・ごめんね・がんばって・やさしいね・すごいね」といったあたたかい言葉に変われば、友達との関係が潤い、どの子にも居場所が生まれ、すてきな学級・学校に変わっていくはずです。

きつい言葉をなくすためには、どうすればよいでしょう。その手掛かりは「思いやりの心」にあるのではないでしょうか。昨今、家族同士のかかわりが希薄になっているとよく言われます。それに伴い、親子の会話が少なくなっているそうです。ところが、親から子どもにかける言葉が一方的になりがちです。「勉強したの？」「今日、忘れ物しなかった？」という聞き方は、「問いただす、責める」聞き方です。こうした一方的な聞き方では、心と心のキャッチボールができません。お家の人がニコニコと相槌をうちながら、学校での出来事を聴いてあげれば、子どもは学校での出来事をワクワクしながら語ってくれます。共感しながらの親子の会話が、子どもの心に「思いやりの心」を育むのです。

子どもの話に共感をもって耳を傾けることは、子どもの気持ちを満たすことになるばかりか、気持ちを満たされた子どもは、今度は自分が友達や周囲の人たちの気持ちに共感できるようになってきます。

私たち教職員も、常日頃、子どもたちに「プラス思考」の言葉かけをし、お互いを思いやるあたたかい人間関係をつくっていこうと心がけています。今後も、ご家庭とともに、思いやり溢れる子どもを育てていきたいと考えています。ご協力、よろしくお願いします。

「そうじは、思いやり」　やさしい心も、磨きましょう！

掃除を真面目にする子は、思いやりのある子が多いと言われます。教室や学校をきれいにできる人は、きっと教室や学校への感謝の気持ちも忘れない人。きっと教室や学校を自分の大切なものだと思っている人。そして、きっと何に対しても誠実な人、優しい人。だから、「そうじは、思いやり」なのでしょう。

防犯カメラを設置しました

育生会にお願いをして、昨年１２月末に、防犯カメラを玄関周辺を中心に６台設置させていただきました。ありがとうございます。